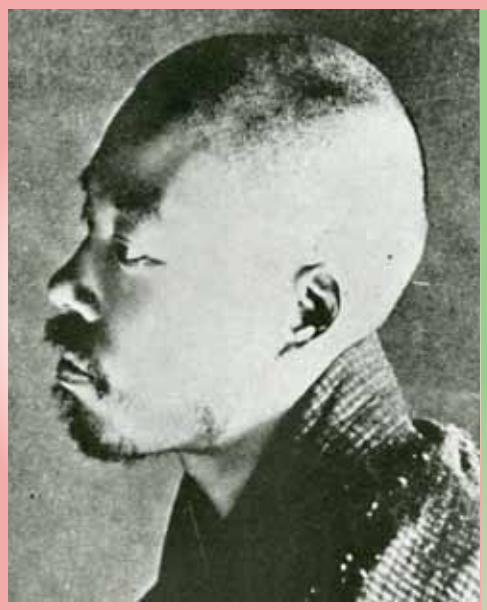
平成31年新春特別展

ほとゝぎすは余の生命（いのち）なり

―雑誌『ほとゝぎす』、松山から全国へ―

平成30年12月22日（土）～平成31年1月31日（木）



休館日　平成30年12月25日、平成31年1月8日、15日、22日、29日（いずれも火曜日）
開館時間　午前9時～午後5時（展示室入場は午後4時30分まで）

会場　松山市立子規記念博物館 3階特別展示室
観覧料　個人200円 団体160円 65歳以上100円 小中高校生 無料
特典／常設展とセットで特別展の観覧券を購入する場合、
特別展の観覧料は2割引、
子規博友の会会員が特別展の観覧券を購入する場合、
特別展の観覧料は2割引

学芸員によるギャラリートーク
日時：平成30年12月29日（土）、平成31年1月13日（日）、
1月26日（土）ともに午前10時30分より50分程度
会場：3階特別展示室　※聴講には特別展の観覧券が必要

松山市立子規記念博物館
Tel. 089-931-5566　〒790-0857　松山市道後公園 1-30
施設運営・管理／株式会社レスパスコーポレーション http://sikihaku.lesp.co.jp/

平成31年新春特別展

ほとゝぎすは余の生命（いのち）なり

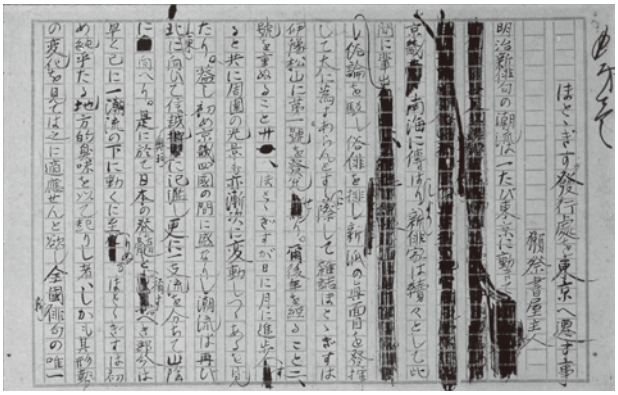
―雑誌『ほとゝぎす』、松山から全国へ―

「ほとゝぎすは余の生命なり」と子規が述べた雑誌『ほとゝぎす』。『ほとゝぎす』は「松山」を発祥の地として、今から一二〇年以上前の明治三十年に創刊されました。『ほとゝぎす』は、子規の文学活動にどのような役割を果たしたのでしょうか。

明治二十年代後半、子規は俳句革新運動を展開し、子規派の俳句は俳壇の新しい潮流として注目されていました。子規の親友で俳人だった柳原極堂は、この革新運動を支援したいという想いを強く抱き、全国初の子規派の雑誌として『ほとゝぎす』を創刊します。編集・経営を極堂が一手に担い、掲載された俳句や文章は子規を中心とする子規派の人びとが手がけました。

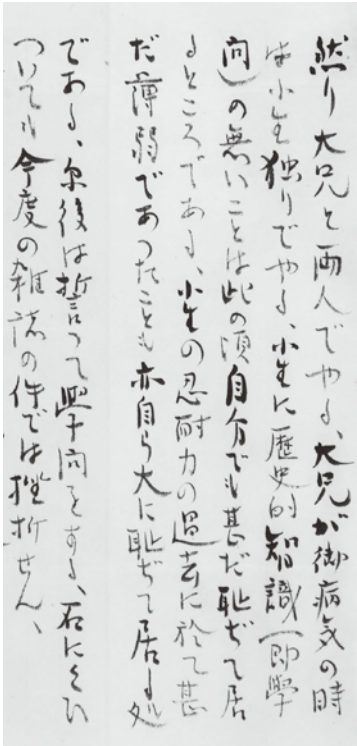
創刊後、次第に読者を全国にひろげ、明治三十一年には、編集・経営が子規の門人・高浜虚子に引き継がれ、東京を発行所として出版されることとなります。東遷後は和歌・新体詩や文学・美術の批評なども掲載される雑誌となり、子規派の文学活動の重要な拠点としてその役割を果たしていきました。

今回の特別展では、子規と極堂の固い友情によりここ「松山」の地で〝雑誌『ほとゝぎす』〟が誕生したいきさつや、〝東遷〟して全国誌となった『ほとゝぎす』が子規や子規周辺の人びとの文学活動の拠点として果たした役割の大きさを物語る資料を紹介し、子規が情熱を注ぎ、生命をかけた雑誌『ほとゝぎす』の軌跡に迫ります。

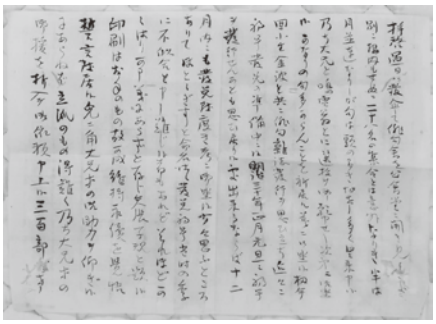


子規筆原稿「ほとゝぎす発行処を東京へ遷す事」

『ほとゝぎす』第５巻第１号

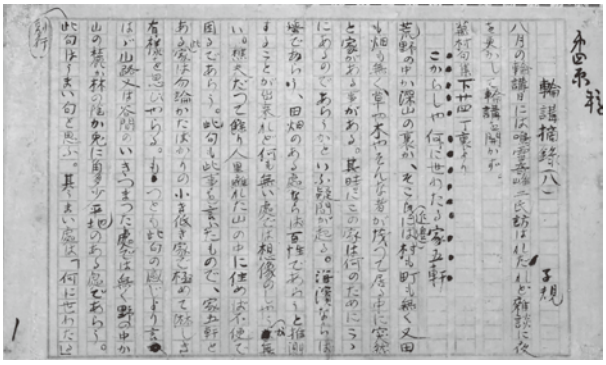


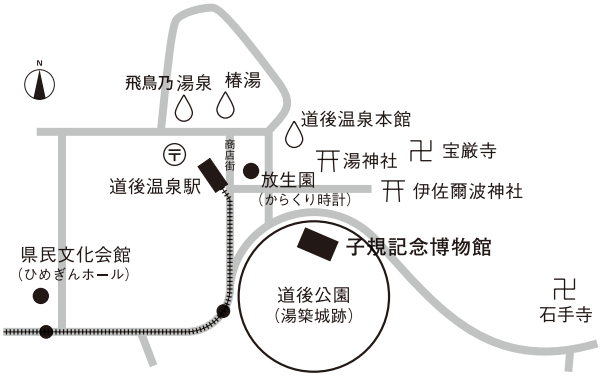
高浜虚子の子規あて書簡
（明治31年７月８日）



柳原極堂の子規あて書簡（明治29年11月頃）

子規筆原稿
「輪講摘録八」





道後温泉駅より徒歩約５分／道後公園駅より徒歩約５分
※公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館 TEL 089-931-5566 〒790－0857 松山市道後公園 1-30
施設運営・管理／株式会社レスパスコーポレーション http://sikihaku.lesp.co.jp/